

問1 都市の人口構造において「昼夜間人口比率」という言葉が使われます。この比率が100パーセントを大きく超える地域の特徴を説明したものと
して、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 大規模な工場が立ち並び工業地帯であり、交代制勤務のために昼間と夜間の人口が常に一定に保たれている。 | 2. 都市の郊外にあたり、豊かな自然環境を求めて移住する人が多いため、夜間に滞在する居住人口が昼間の活動人口を上回っている。 | 3. 住宅供給会社による大規模な住宅団地が整備された地域であり、都心へ通勤する現役世代が多いため、昼間の人口が極端に少なくなっている。 | 4. 都市の中心部にあたり、オフィスビルや商業施設が集中しているため、通勤や通学によって流入する人口が居住人口を上回っている。 |
|--|--|---|---|

問2 日本の再生可能エネルギーの利用状況について、岩手県や鹿児島県とともに、国内最大級の発電施設がある大分県などが発電量の上位を占めて
いる発電方式はどれか。 (2022年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|---------|----------|---------|
| 1. バイオマス発電 | 2. 風力発電 | 3. 太陽光発電 | 4. 地熱発電 |
|------------|---------|----------|---------|

問3 1970年代に発生した石油危機をきっかけに、日本を含む多くの国で研究が進められました。太陽光や風力、あるいは動植物などの生物資源を利用
したエネルギーのように、自然界に常に存在し、繰り返し利用できるエネルギーの総称を何と言いますか。 (2026年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------|-------------|---------|---------------|
| 1. 再生可能エネルギー | 2. 原子力エネルギー | 3. 化石燃料 | 4. 火力発電用エネルギー |
|--------------|-------------|---------|---------------|

問4 かつて大規模な工場が立地していた駅周辺の土地において、近年進められている「再開発」の手法や特徴について述べた文として、正しいもの
はどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 歴史的な工場建屋をすべて解体した上で、その場所を大規模な物流トラック専用の駐車場に転換する手法 | 2. 駅に近い利便性を活かし、工場跡地に商業施設やオフィス、住宅などを一体的に整備して土地を有効活用する手法 | 3. 都市の過密化を防ぐために、駅周辺の更地をすべて農地に転換し、都市農業の拠点として整備する手法 | 4. 工場の跡地を元の自然に近い状態に戻すため、一帯をすべて保安林に指定して開発を制限する手法 |
|--|--|---|---|

問5 スマートフォンや電気自動車のモーター、高性能な電子部品など、現代の先端技術を用いた製品の製造に欠かせない資源について述べたものと
して、最も適切なものはどれか。 (2025年 高知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 鉄鋼の原料となる鉄鉱石や、電線などに使われる銅といった、古くから工業製品の主軸となってきた主要な金属資源。 | 2. リチウムやコバルトなどに代表される、地球上の存在量が少ない、あるいは純粋な物質として取り出すことが難しいレアメタル（希少金属）。 | 3. ボーキサイトを原料として精錬され、軽くて加工がしやすいため窓枠や飲料缶などに広く利用されるアルミニウム。 | 4. 石炭や石油、天然ガスのように、地層の中に埋蔵されており、燃焼させることでエネルギーを得ることができる化石燃料。 |
|--|---|---|--|

問6 日本の食料自給率の推移を、野菜・果実・小麦の3つの品目について示した統計において、それぞれの自給率の傾向を説明したものとして最も適
切なものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 野菜は鮮度を重視する特性から高い水準で安定し、果実は中程度、小麦は輸入依存度が高いため最も低い水準で推移している。 | 2. 小麦は大規模な機械化が進んでいるため高い水準で安定し、果実は中程度、野菜は輸入が増加したため最も低い水準で推移している。 | 3. 果実は国内での栽培に適しているため高い水準で安定し、野菜は中程度、小麦は消費が減ったため最も低い水準で推移している。 | 4. 野菜は高い水準で安定しているが、小麦はパン食の普及により中程度まで上昇し、果実が最も低い水準で推移している。 |
|--|---|---|---|

問7 日本の高度経済成長期にあたる1970年頃の貿易統計において、石油（14.8%）や鉄鉱石などの原材料の輸入割合が目立って高かった理由として、
最も適切な説明はどれか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 日本国内で綿花や生糸などの繊維原料が自給できるようになり、海外から輸入する必要がなくなったため。 | 2. 高度経済成長によって国民の生活が豊かになり、自家用車を動かすためのガソリンが不足したことが唯一の要因である。 | 3. 鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業が発展し、製造工程で大量の資源やエネルギーを必要としたため。 | 4. 欧米諸国との貿易摩擦を避けるために、製品の輸出を自粛して原材料の輸入を強制的に増やしたため。 |
|---|---|---|---|

問8 日本の農業において、ロボット技術を活用した機械化を進めたり、農家一戸あたりの農地面積や家畜の飼養頭数を増やしたりして生産性を高め
る取り組みを何といいいますか。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------|------------------|------------|------------------|
| 1. 海外への輸出を増やす取り組み | 2. 地産地消を促進する取り組み | 3. 農業の規模拡大 | 4. 空き地を農地にする取り組み |
|-------------------|------------------|------------|------------------|

問9 宮崎平野や高知平野で行われている、冬の温暖な気候を利用してビニールハウスなどで野菜の成長を早める「促成栽培」の特徴について説明し
たものとして、正しいものはどれですか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 広大な土地を利用して、機械化による生産コストの削減を徹底することで利益を上げている。 | 2. 化学肥料の使用を抑え、自然の気候のみを利用することで環境負荷の少ない農業を目指している。 | 3. 大消費地である東京や大阪に隣接しているため、輸送距離の短縮による低価格販売を実現している。 | 4. 出荷時期を他産地とずらすことで、市場価格が高い時期を狙って出荷し、収益性を高めている。 |
|---|---|--|--|

問10 青森県、千葉県、山梨県、鳥取県、島根県の5県における果実の収穫量を比較した統計において、青森県がりんご、山梨県がももやぶどうで全国
上位を占める中、鳥取県において1万トンを超える高い数値を示し、県の代表的な特産品として位置づけられている果実を選びなさい。 (2023年
鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|--------|----------|-------|
| 1. 日本なし | 2. りんご | 3. さくらんぼ | 4. もも |
|---------|--------|----------|-------|

問11 かつての日本の貿易の特徴を説明した資料において、日本が「加工貿易」を中心に経済を発展させてきた背景と、その仕組みを説明した文とし
て最も適切なものはどれですか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 他国から輸入した荷物を、加工せずにそのまま別の国へ転売することで、仲介手数料を得る仕組み。 | 2. 国内で不足している食料品を輸入し、余った農産物を海外へ輸出することで、国内の食料自給率の向上を目指す仕組み。 | 3. 海外から輸入した原料を国内の技術で製品に加工し、輸出によって高い利益を得ることで、資源の少なさを補う仕組み。 | 4. 開発途上国に技術援助を行い、現地で生産された製品をすべて買い取ることで、国際貢献と国内消費の拡大を図る仕組み。 |
|--|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 都市の中心部にあたり、オフィスビルや商業施設が集中しているため、通勤や通学によって流入する人口が居住人口を上回っている。	昼夜間人口比率は、夜間の居住人口に対する、昼間の人口（居住人口に通勤・通学による流入・流出を加減したもの）の割合を示します。東京の千代田区などの都心部では、居住用の住宅よりもオフィスや商業施設が多いため、夜間に生活する人数に比べて、昼間に仕事や学習のために集まる人数が圧倒的に多くなり、比率が高くなります。
問2	答え 4 地熱発電	日本は世界有数の火山国であり、火山の地下にあるマグマの熱エネルギーを直接利用できる環境が整っています。特に大分県や鹿児島県などの九州地方には国内の発電施設の約四割が集中しており、地域特性を活かした重要なエネルギー源となっています。
問3	答え 1 再生可能エネルギー	1973年の第1次石油危機（オイルショック）により、石油の価格高騰や供給不足が深刻化したため、石油に代わる新しいエネルギー源の確保が急務となりました。太陽光や風力、バイオマスなどは資源が枯渇せず、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出も少ないため、持続可能な社会を築くための重要な資源として位置づけられています。
問4	答え 2 駅に近い利便性を活かし、工場跡地に商業施設やオフィス、住宅などを一体的に整備して土地を有効活用する手法	駅周辺の再開発は、工場が移転した後の広大な跡地を利用して行われることが一般的です。こうした土地は細分化されていないため、一体的な都市計画が立てやすいというメリットがあります。再開発によって大型のショッピングモールや文化施設、高層住宅などが建設されることで、駅周辺の回遊性が高まり、地域経済の活性化や定住人口の増加が期待されます。これは「土地利用の高度化」と呼ばれる、効率的な都市づくりの代表的な事例です。
問5	答え 2 リチウムやコバルトなどに代表される、地球上の存在量が少ない、あるいは純粋な物質として取り出すことが難しいレアメタル（希少金属）。	レアメタルは日本語で「希少金属」と呼ばれ、地球上の埋蔵量が非常に少ないものや、技術的に抽出が困難な金属を指します。デジタル機器や環境対応車などの製造に不可欠であり、「産業のビタミン」とも例えられる重要な資源です。
問6	答え 1 野菜は鮮度を重視する特性から高い水準で安定し、果実は中程度、小麦は輸入依存度が高いため最も低い水準で推移している。	日本の食料自給率は品目によって大きな差が見られます。野菜は鮮度が求められるため、消費地に近い国内で生産される割合が高く、自給率は比較的高水準を維持しています。一方、小麦はパンや麺類としての需要が高いものの、広大な土地を利用した大規模な外国産との価格競争が難しいため、多くを輸入に頼っており、自給率は極めて低い状況にあります。果実はその中間の水準となっています。
問7	答え 3 鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業が発展し、製造工程で大量の資源やエネルギーを必要としたため。	1970年頃の日本は高度経済成長の真っ只中にあり、産業構造が軽工業から重化学工業へと大きく転換していました。鉄鋼、化学、機械などの産業を維持・発展させるためには、国内で不足している石油、鉄鉱石、石炭といった原材料やエネルギー資源を大量に海外から調達する必要があったため、これらの品目が輸入品目の中で大きな割合を占めていました。
問8	答え 3 農業の規模拡大	ロボットトラクターの導入などの機械化を進めたり、一戸あたりの飼養頭数や耕作面積を増やしたりして経営の規模を大きくすることで、農業の規模拡大と呼びます。これにより、少ない労働力で高い生産性を目指しています。
問9	答え 4 出荷時期を他産地とずらすことで、市場価格が高い時期を狙って出荷し、収益性を高めている。	促成栽培は、ビニールハウスの設置や暖房用の燃料費といったコストがかかる栽培方法です。そのため、単に作るだけでなく、販売戦略が重要になります。具体的には、他の地域からの出荷が少ない「冬から春」という時期にターゲットを絞って出荷を増やすことで、市場価格が高い状態を維持し、かかった経費以上の利益を得る工夫がなされています。輸送距離については、宮崎県や高知県は消費地から遠いため、保冷トラックや船舶などを利用した輸送技術の向上も併せて発展してきました。
問10	答え 1 日本なし	鳥取県は「二十世紀」などの品種に代表される日本なしの主要な産地として知られています。統計資料において、青森県が圧倒的なシェアを持つ「りんご」や、山梨県が産出額トップクラスである「もも」「ぶどう」と並んで、鳥取県が突出した数値を示す果実は日本なし（和なし）です。千葉県や茨城県も生産が盛んですが、中国地方においては鳥取県の重要な農業的特徴となっています。
問11	答え 3 海外から輸入した原料を国内の技術で製品に加工し、輸出によって高い利益を得ることで、資源の少なさを補う仕組み。	日本は工業に不可欠な資源の多くを輸入に頼らざるを得ない状況にありました。そのため、輸入した「原料」を高度な技術で価値の高い「工業製品」へと作り替え、それを「輸出」して外貨を稼ぐというサイクルが確立されました。この仕組みは、資源が少ない日本が世界有数の工業国へと成長する原動力となりました。現在では、経済のグローバル化に伴い、部品を輸入して組み立てる「水平分業」などの形態も増えています。